



# 田村 正徳 Masanori TAMURA

職名 客員教授

担当科目 大学院 PCAN

学歴 東京大学医学部医学科

学位 医学博士(東京大学)

主な職歴 東京大学医学部小児科学教室講師、湾岸危機医療先遣隊員、長野県立こども病院副院長  
埼玉医科大学総合医療センター総合周産期母子医療センター長、同名誉教授、

研究分野／ 新生児医療、新生児蘇生法(NCPR)、生命論理、医療的ケア児問題

Key word

主要著書・  
学術論文

## <新生児医療関係>

- ・鈴木啓二、田村正徳(2009). 4.新生児. 呼吸理学療法(第2版). 68-76. 三輪書店.
- ・藤村正哲(監集),田村正徳(編集),森林太郎(編集),他(2010). 科学的根拠に基づいた新生児慢性肺疾患の診療指針(改訂2版). MCメディカ出版.
- ・新生児医療連絡会編:板橋稼頭夫、楠田聡、田村正徳(編集世話人). NICU マニュアル 第5版-金原出版. 2014.
- ・田村正徳, 田口智章,松藤凡, 武藤充, 他(2018). ヒルシュプルング病類縁疾患 診療ガイドライン 1-96. メジカルビュー社.
- ・田村正徳. 「母子同室実施の留意点」について(2020). 日本産婦人科医会報. 72(2):8-9
- ・田村正徳, 志馬伸朗(2023). 新生児・小児の呼吸管理. 第28回3学会合同呼吸療法士認定講習会テキスト-2023年度版. 405-452.
- ・田村正徳, 森脇浩一, 内田美恵子(2023). 第3編第1章 1.NICUの長期入院児の実態. 岡田喜篤(監修). 新版重症心身障害療育マニュアル. 266-271. 医歯薬出版

## <痛みのケア関係>

- ・横尾京子、田村正徳(2014). NICUに入院している新生児の痛みの軽減を目指したケア:ガイドライン作成に向けて. 日本未熟児新生児学会雑誌. 26(2):30-34
- ・田村正徳、内田美恵子、斎藤依子(2014). 16 重篤な疾患を持つ新生児の家族と医療スタッフの話し合いのガイドライン. 周産期医療と生命倫理入門. 207-220. メディカ出版.
- ・田村正徳(2015). 合同シンポジウム「NICUの新生児の痛みを軽減するガイドライン」. 日本新生児成育医学会雑誌, 27(2):10-12. 日本新生児成育医学会.
- ・田村正徳(2019). NICUにおける痛みのケアガイドライン 2020年版の要点. 第55回日本周産期・新生児医学会シンポジウム. 日本周産期・新生児医学会雑誌, 55(2):397.

## <医療的ケア児関係>

- ・田村正徳(2011). シンポジウム 2:NICUと重症心身障害児(者)施設(病棟)との連携:新生児医療と重症心身障害児医療. 日本重症心身障害学会誌, 36(1):65-70
- ・田村正徳(2010). 長期入院児支援システム. 母子保健情報. 62:1-10.
- ・田村正徳(編), 他(2012). 8章 新生児医療. 在宅医療. 遠藤文夫(総編集). 最新ガイドライン準拠. 小児科 診断・治療指針. 201-203. 中山書店.
- ・田村正徳(2014). NICUから始まる小児在宅医療. 日本在宅医療学会雑誌, 16(1):88
- ・田村正徳(2015). NICUから在宅医療への移行ー特に人工呼吸器装着患者に関してー. 日在医会

誌, 16(2):21-25.

- ・沢口恵、山路野百合、大田えりか、田村正徳(2019). 訪問看護をしている小児の利用者数と医療的ケアの実態. 日本在宅ケア学会誌, 23(1):47-52. 日本在宅ケア学会.
- ・田村正徳、前田浩利(2019). はじめよう!おうちでできる子どものリハビリテーション&やさしいケア. 1-307. 三輪出版.
- ・田村正徳監修(2017). 小児在宅医療が必要な子どものためのケアテキスト Q&A. メディカ出版.
- ・田村正徳(2019). 急増する NICU から始まる在宅人工呼吸患者. 第 55 回日本周産期・新生児医学会シンポジウム. 日本周産期・新生児医学会雑誌, 55(2)、407
- ・森脇浩一、奈倉道明、田村正徳(2019). 気管切開をしている在宅医療児の地域中核病院における緊急受入れに関する調査. 日本小児科学会雑誌, 123(10):1565-1570.
- ・田村正徳、船戸正久(2020). 人工呼吸器のような高度医療ケア児の学校における看護ケアをどうするか? 日本重症心身障害児学会雑誌, 45(1),71-76.
- ・田村正徳、川前金幸(2020). 在宅人工呼吸患者の危機管理. 日本周産期・新生児医学会雑誌, 55(5)1392-93.
- ・田村正徳監修(2020). 命あるがままに: 医療的ケア児の必要な子どもと家族の物語. 中央法規出版.
- ・田村正徳(編集協力者)(2021). 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課監修, 小学校等における医療的ケア実施支援資料～医療的ケア児を安心・安全に受け入れるために～, 令和3年6月 [https://www.mext.go.jp/content/20211014-mxt\\_tokubetu02-000016489\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20211014-mxt_tokubetu02-000016489_1.pdf)
- ・田村正徳(コアメンバー)(2021). 小児在宅医療基盤整備に向けた課題. 令和3年度厚生労働省委託在宅医療関連講師人材養成事業「小児在宅医療に関する人材養成講習会」報告書.27-54. <https://www.mhlw.go.jp/content/10802000/000934620.pdf>
- ・田村正徳(2022). 「医療的ケア児とその家族の支援に必要な基礎知識」, 日本看護協会, 2022 年度小児在宅移行支援指導者育成事業研修テキスト. 44-71.

#### <新生児蘇生法関係>

- ・田村正徳監修(2007). 日本版救急蘇生ガイドライン 2005 に基づく新生児蘇生法テキスト. メジカルビュー社.
- ・田村正徳監修(2007). 日本版救急蘇生ガイドライン 2005 に基づく新生児蘇生法インストラクターマニュアル. メジカルビュー社.
- ・田村正徳監修(2011). 日本版救急蘇生ガイドライン 2010 に基づく新生児蘇生法テキスト. メジカルビュー社.
- ・田村正徳監修(2011). 日本版救急蘇生ガイドライン 2010 に基づく新生児蘇生法インストラクターマニュアル. メジカルビュー社.
- ・田村正徳(2016). 第4章 新生児の蘇生. JRC 蘇生ガイドライン 2015. 244-289. 医学書院.
- ・田村正徳、他(2011). JRC 蘇生ガイドライン 2010. 1-446.へるす出版.
- ・田村正徳、他(2012). 【改定4版】救急蘇生法の指針 2010 医療従事者用. 1-214.
- ・田村正徳、他(2011). 【改定4版】救急蘇生法の指針 2010 市民用・解説編.
- ・田村正徳(2011). 新生児の蘇生法 改訂 NCPD ガイドライン 2010 について. 助産雑誌, 65(7):608-621.
- ・田村正徳(監修) 岩田欧介(編集) 岩田幸子 武内俊樹 鍋谷まこと(2011). CONSENSUS2010 に基づく新生児低体温療法実践マニュアル. 東京医学社, 1-144.
- ・国方徹也、田村正徳、側島久典、他(2011). 我が国の新生児蘇生体制の現状と課題の分析—第二報、開業助産施設. 日本周産期・新生児医学会雑誌, 47(4):894-927.
- ・國方徹也、田村正徳、側島久典、江崎勝一、石黒秋生、他(2011). 我が国の新生児蘇生体制の現状と課題の分析—第一報、日本周産期・新生児医学会周産期(新生児)研修施設. 日本周産期・新生児医学会雑誌, 47(3):595-600.
- ・國方徹也、田村正徳、側島久典、鈴木啓二、他(2011). NCPD ガイドライン 2005 展開後の我が国の新生児蘇生の変化(アンケート調査から)—展開前の調査(2005 年度)と比較して—. 日本未熟児

新生児学会雑誌.. 23(3):473.

・國方徹也、田村正徳、側島久典、江崎勝一、他(2011). 我が国の新生児蘇生体制の現状と課題の分析—第一報、日本周産期・新生児医学会周産期(新生児)研修施設. 日本周産期・新生児医学会雑誌, 47(3):595-600

・國方徹也、田村正徳、側島久典、他(2011.). 日本版新生児蘇生法(NCPR)講習会展開後の分娩施設での新生児蘇生の現状—展開前(2005年)との比較. 日本周産期・新生児医学会雑誌, 47(2):414

・田村正徳、武内俊樹, 岩田欧介, 鍋谷まこと(2011). 本邦における新生児低酸素性虚血性脳症に対する低体温療法の指針. 日本未熟児新生児学会雑誌, 23(2):217-220

・田村正徳(2011). 新生児蘇生法(NCPR)普及事業の現状と Consensus2010 への準備状況. 蘇生, 30(1):20-25.

・田村正徳(執筆・監修), 中野玲二, 他(2011). 日本版救急蘇生ガイドライン 2010 に基づく 新生児蘇生法インストラクターマニュアル 第2版. メジカルビュー社.

・田村正徳(執筆・監修) 側島久典、和田雅樹、他(2011). 改訂第2版 日本版救急蘇生ガイドライン 2010 に基づく 新生児蘇生法テキスト. メジカルビュー社.

・田村正徳, 渡部晋一, 長谷川久弥, 大木康史, 牧野真太郎, 武内俊樹(2011). CONSENSUS2010 に基づく新生児蘇生法ガイドライン改訂のポイント. Covidien 周産期・新生児ケアセミナー テキスト. 1-14

・田村正徳(編)、他(2012). 8章 新生児医療 出生児の蘇生. 最新ガイドライン準拠. 遠藤文夫(総編) 小児科 診断・治療指針. 171-176. 中山書店.

・田村正徳(共同編集).細野茂春監修(2016). 日本版救急蘇生ガイドライン 2015 に基づく新生児蘇生法テキスト. メジカルビュー社.

・田村正徳(共同編集).細野茂春監修(2016). 日本版救急蘇生ガイドライン 2015 に基づく新生児蘇生法インストラクターマニュアル. メジカルビュー社.

・田村正徳(2019)監訳. AAP/AHA 新生児蘇生テキストブック 第2版. 医学書院.

・田村正徳(NCPR 共同座長)(2021). 第4章 新生児の蘇生. 232-263. JRC 蘇生ガイドライン 2020, 日本蘇生協議会, 医学書院,

・田村正徳(共同編集).細野茂春監修(2021). 日本版救急蘇生ガイドライン 2020 に基づく新生児蘇生法テキスト. メジカルビュー社.

・田村正徳, 責任編集(2023). 第5巻6 新生児の蘇生. 町浦美智子. 助産師基礎教育テキスト2023年版. 90-202, 日本看護協会出版会.

・Wyllie J, Perlman JM, Kattwinkel J, Tamura M(2010). Part 11: Neonatal Resuscitation: 2010 International Consensus on Cardiopulmonary Resuscitation and Emergency Cardiovascular Care Science With Treatment Recommendations. Circulation. 122;S516-S538;2010.

・Iwata S, Bainbridge A, Nakamura T, Tamura M, Takashima S, Matsuishi T, Iwata O. (2010). Subtle white matter injury is common in term-born infants with a wide range of risks.. International journal of developmental neuroscience. 28(7):573-580;2010,

・Sakurai Y, Tamura M. (2014). Pressure support ventilation plus volume guarantee ventilation: is it protective for premature lung?. Pediatr Crit Care Med. 2014. 15(3):272-273

・Iwata O, Takenouchi T, Iwata S, Nabetani M, Mukai T, Shibasaki J, Tsuda K, Tokuhisa T, Sobajima H, Tamura M. (2014). The baby cooling project of Japan to implement evidence-based neonatal cooling. Ther Hypothermia Temp Manag. 2014.4(4):173-9

・Perlman JM, Wyllie J, Kattwinkel J, Wyckoff MH, Aziz K, Guinsburg R, Kim HS, Liley HG, Mildenhall L, Simon WM, Szyld E, Tamura M, Velaphi S. (2015). Neonatal Resuscitation Chapter Collaborators.Part 7: Neonatal Resuscitation: 2015 International Consensus on Cardiopulmonary Resuscitation and Emergency Cardiovascular Care Science With Treatment Recommendations (Reprint).. Pediatrics. 2015. 136(2):S120-S166

- ・Jeffrey M. Perlman, Jonathan Wyllie, John Kattwinkel; Myra H. Wyckoff; Khalid Aziz; Ruth Guinsburg; Han-Suk Kim; Helen G. Liley; Lindsay Mildenhall; Wendy M. Simon; Edgardo Szyld; Masanori Tamura; Sithembiso Velaphi; on behalf of the Neonatal Resuscitation Chapter Collaborators".(2015). 2015 International Consensus on Cardiopulmonary Resuscitation and Emergency Cardiovascular Care Science With Treatment Recommendations. Circulation. 2015. 132:S204-S241
- ・Wyllie J, Perlman JM, Kattwinkel J, Wyckoff MH, Aziz K, Guinsburg R, Kim HS, Liley HG, Mildenhall L, Simon WM, Szyld E, Tamura M, Velaphi S. ; Neonatal Resuscitation Chapter Collaborators (2015). Part 7: Neonatal resuscitation: 2015 International Consensus on Cardiopulmonary Resuscitation and Emergency Cardiovascular Care Science with Treatment Recommendations.. Resuscitation. 2015. 95:e169-e201
- ・Sakurai Y, Tamura M.(2015). Efficacy of the Airway Scope (Pentax-AWS) for Training. in Pediatric Intubation. 2015. 57(2):217-221
- ・Hosono S., Tamura M., et al.(2019). Neonatal cardiopulmonary resuscitation project in Japan. Pediatrics International. 61:634-640
- ・Hosono S., Tamura M., et al(2020). "Summary of Japanese Neonatal Cardiopulmonary Resuscitation. Pediatrics International. 62(2):128-139
- ・Haga M., Kanai M., Ishiguro A., Tamura M. et al.(2022). Changes in in-hospital survival and long-term neurodevelopmental outcomes of extremely preterm infants: A retrospective study of a Japanese tertiary center. The Journal of Pediatrics, doi: <https://doi.org/10.1016/j.jpeds.2022.11.024>.

#### 所属学会

日本小児科学会(名誉会員)、日本周産期・新生児医学会(名誉会員)、日本新生児成育医学会(名誉会員)、日本小児在宅医療支援研究会代表理事、日本呼吸療法医学会専門医、社会医学系専門医協会社会医学系専門医・指導医、

#### 主な社会 貢献活動

日本周産期・新生児医学会(第4代理事長、新生児蘇生法委員会初代委員長兼担当理事)、国際蘇生協議会新生児部会(ILCOR)タスクフォース(2007-2015)、日本医師会小児在宅ケア検討委員会委員長(2017年~2022)、障害福祉サービス等報酬改定検討チームアドバイザー(2020年~現在)、産科医療補償制度再発防止委員会委員(2009~2022年)、日本看護協会 NICU/GCU を退院する児と家族の支援推進検討委員会委員(2016~現在)、医薬品医療機器総合機構生物系審査部専門委員(2016年~現在)、NPO 法人新生児臨床研究ネットワーク理事(2015~現在)、在宅医療関連講師人材養成事業「小児を対象とした在宅医療分野」コアメンバー(2019~現在)、三学会合同呼吸療法士認定試験委員会委員(2003年~現在)、ハイリスク新生児フォローアップ研究会常任幹事(2005年~現在)、新生児人工呼吸・モニタリングフォーラム in Shinshu 発起人 COO→顧問、一般財団法人日本助産評価機構 助産教育認証評価部 認証評価評議員(2022年~現在)

令和3年度文部科学省学校における医療的ケア実施体制充実事業「学校における医療的ケアの環境整備に関する事例等に関する調査研究」委員、

各種学会雑誌査読者(Pediatric Critical Care Medicine, Pediatric International,日本小児科学会誌、日本呼吸療法医学会雑誌、日本周産期・新生児医学会雑誌、日本新生児成育医学会誌)

#### <研究代表者を務めた各種公的研究班>

- ・平成 13-15 年度国立成育医療研究事業「重症障害新生児医療のガイドラインとハイリスク新生児の診断システムに関する研究」
- ・平成 13-14 年度厚生省子ども家庭総合研究事業「後障害防止に向けた新生児医療のあり方に関する研究」
- ・平成 15-18 年度 厚生労働科学研究 精神・神経疾患研究委託事業(15 指-4)「発達期に発生する外因性脳障害の診断・治療ガイドラインに関する臨床的・実証研究」
- ・平成 18-20 年度厚生労働科学研究精神・神経疾患研究委託事業(18 指-4)「発達期に発生する外因性脳障害の診断・治療・予防のための実証的研究とガイドライン作成に関する研究」
- ・平成 18-20 年度厚生労働科学研究医療技術実用化総合研究事業「超低出生体重児の慢性肺疾患発症予防のためのフルチカゾン吸入に関する臨床研究」

- ・平成 21-23 年度厚生労働科研費補助金子ども家庭総合研究事業「地域における周産期医療システムの充実のための研究」
- ・平成 20-23 年厚生労働省度こども家庭総合研究「重症新生児に対する療養・療育環境の拡充に関する総合研究」
- ・平成 24-27 年度厚生労働省子ども家庭総合研究事業「重症慢性疾患児の在宅と病棟での療養・療育環境の充実に関する研究」
- ・平成 26-27 年度厚生労働省「地域格差是正を通じた周産期医療体制の将来ビジョン実現に向けた先行研究」
- ・平成 28-30 年度厚生労働省「医療的ケア児に関する実態調査と医療・福祉・保健・教育等の連携促進に関する研究」
- ・平成 29 年度厚生労働省「医療的ケア児に対する教育機関における看護ケアに関する研究」
- ・平成 30-令和元年度厚生労働省「学校の療養生活の場における医療的ケア児への質の高い医療的ケアの提供に資する研究」
- ・平成 30-令和元年度厚生労働省「医療的ケア児の判定基準確立のための研究」
- ・令和 3 年度障害者総合福祉推進事業「医療的ケア児の実態把握のあり方及び医療的ケア児等コーディネーターの効果的な配置等に関する 調査研究」座長
- ・令和 4 年度障害者総合福祉推進事業「医療的ケア児センターの地域支援機能、活動状況等に関する実態調査及び医ケア児者支援に係る訪問看護ステーション等による連携等の調査研究」座長

出前授業  
テーマ

高校生を対象に講義できるテーマ・内容を記載してください

赤ちゃんの救急蘇生法

赤ちゃんや小さな子どものお家での事故防止対策

お家で医療装置が必要な子ども達

ふたごちゃん、三つ子ちゃんを育てるお母さんの苦勞

E-mail

[m-tamura@saku.ac.jp](mailto:m-tamura@saku.ac.jp)

mstamura@m7.dion.ne.jp